

きたのこだより



札幌市立あつべつきた幼稚園 令和2年12月発行 第2号

札幌市研究実践園研修事業 厚別区研修会を開催しました！

『気になる子の視点から保育を見直す・考える』

～共生社会の担い手を育むために～

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 インクルーシブ教育推進センター

上席総括研究員 久保山 茂樹氏

11月6日（金）、独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 インクルーシブ教育推進センター 久保山茂樹氏を迎え、厚別区研修会（札幌私幼区研修会と共催）を開催しました。幼稚園・認定こども園、保育園の先生を中心に31名にご参加いただき、上記のテーマで以下のような内容のお話をいただきました。

- ・教師や保護者がつながって気になる子を見守る。教師一人で背負わず連携を取り合いながらみんなで子どもに関わっていく。
- ・子どもの良さや得意にまなざしを向け、そこから関わる。子どもが今、もっている力を発揮できるようにする。将来を見据えながらも、「今、ここ」を生きる子どもの姿を認める。
- ・子どもを支援する視点としては大人が変わること。できないことや障がいに着目するのではなく、共に生活する者の視点、共感のまなざしで関わる。
- ・幼稚園教育要領前文にも、「自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し多様な人々と協働しながら、持続可能な社会の創り手となることができるように」と書かれていることを踏まえ、保育者自身が多様な価値観をもつことが大切である。
- ・保育者の言動が子どもに映り、周りの子どもたちに映っていく。保育者がまずは、子どもの理解者となって互いにつなげることができる関わりをする。子どもとつながるために、うまくいかない原因を子どもだけに求めない。子どもを支援の対象とするのではなく、私たちがどう変わる必要があるかを教えてくれる存在と考えるべき。
- ・例えば子どもに「やさしくしてね」と言葉掛けするだけでは、何をどのように意識して動くと良いかわからない。行動を具体的に表す言葉掛けを意識する。

参加してくださった皆様からはたくさんの声をいただきました。先生の言葉が明日からの保育に向かう私たちに力をくださる内容だったのではないかと考えております。

参加の皆様の声



久保山先生のお話を初めて聞かせていただきました。
子どもへはもちろん、私たち保育者へも温かいまなざしを向けていただいていると感じ、とても温かい気持ちになりました。
「子どもを変えるのではなく私たちが変わる」のはとても大切なことと心にしみる言葉をいただきました。 保育園保育士



現場で悩んでいたこと、この子のために自分ができることは何かなど自問自答する毎日でした。今日のお話を聞いて、改めて自分にしかできないことを強みにして楽しい保育をしていきたいと思いました。 保育園保育士



子どもの理解、まなざしの視点の大切さを再認識させていただきました。
どうしてもネガティブなとらえ方をしがちなのでポジティブによいところを捉えようと日々意識して子どもと関わっていきたいと思います。
職員室の雰囲気作り、子どものいろいろな様子など先生たちで共有できるようにしていきたいと思います。 幼稚園教諭

園の話でしたが小学校に共通することが多くありました。
子どもの見方、理解の仕方、とても参考になりました。少し自分自身をアップデートできた気持ちです。
あたたかく、やさしい社会を作り上げる子どもたちに育てたいと思いました。 小学校教諭



前回もお聞きし、同じところは改めて再確認できたり、新しい情報は来週から活かせそうなことばかりでした。
「やさしくしてね」を具体的に表す言葉掛けをするように心がけたいです。 幼稚園教諭

編集後記

札幌市立あつべつきた幼稚園 研究部

昨年度に続き、特別支援教育についての研修内容として久保山先生にお話を伺う機会ができました。コロナ禍の状況の中でも皆様のご協力に対策をとり、研修を実施することができ、うれしく思っております。ご協力いただき、ありがとうございました。

なお、独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所のホームページでは実践事例や特別支援教育の基礎・基本などについての記載を見ることができます。今後も厚別区の子どもたちに関わる皆様の教育・保育がより豊かになることを願い、研修・研究を推進していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

